

救急看護認定看護師

救急患者は、時と場所を選ばず、いつでも何処でも発生します。このような患者さんに接する場合、患者さんの緊急度や重症度を観察して即座に判断し、急激な変化に即応した看護が必要とされます。

救急看護とは、あらゆる状況下で、生命の危機に直面した患者及び、その家族の身体的、心理的反応に対して看護を行います。

私たちが取り組んでいる活動

患者ケア

- ・救命医師及び各診療科主治医とのカンファレンス
- ・定期回診の実施(呼吸ケア・創傷ケア・リハビリ・NST)

事後検証

- ・トリアージ
- ・患者急変に関わる事例検討

院内・院外研修

- ・重症患者ケア・気管カニューレ閉塞時対応
- ・BLS,ACLS,ICLS,JTAS,ファーストエイド・災害時対応
- ・急変対応・急変気づき・急変患者の臨床推論



黒田 啓子

私は、社会のニーズに即した救急看護のあり方を追求し、実践および後輩指導に努めています。院内トリアージ、急性・重症患者看護をサブスペシャリティとし、高齢化が進む社会に対応していく、特定看護師の役割を担っています。患者さんひとりひとりが抱く、人生の価値を見据え、医師・看護師など他職種との関係づくりと、治療・ケア提供に向け、貢献していきたいと考えます。



山崎 早苗

私は、現在集中治療室で看護管理者として勤務しており、サブスペシャリティの呼吸管理に関するを中心に、実践及び教育活動をしています。また、特定看護師の役割を活かしつつ多職種で連携し患者中心の看護を提供していきます。「看護を説明する」ことが出来る認定看護師として、入院前から患者さんの退院後を見据えた看護を考えて行きたいと思えます。



和平 正子

私は救急看護のなかでも、初療看護・院内トリアージ・急変対応に関する看護実践及び、教育活動に取り組んでいます。日々の看護において私は、「気づき」の看護を大切にしています。認定看護師として、この気づきにこだわりを持ちながら、「何か変！を何が変！」に変えていく看護の思考プロセスを大事に、患者さんの状態を予測した看護展開ができるよう、看護スタッフと共に看護実践に力を入れたいと思えます。



峯山 幸子

私は、命の最前線で看護の力を発揮できる救急看護が大好きです。現在はフライトナースの実践、教育やPreventable Death(防ぎ得た死)を予防するための実践、教育活動を行っています。患者さんの一生に関わる急性期看護にプライドを持ち、結果の出せる看護を目指します。



中嶋 康広

私は初療看護・院内トリアージの看護実践及び、院内急変や救急に関する標準化教育活動に取り組んでいます。日々の看護においては、患者さんが退院できるためには何が必要か、何ができるか日々の変化を気付き、患者ケアに活かすことを大切にしています。認定看護師として、この気付きを大切にし、救急領域だけにとらわれず、地域へ帰られる患者さんに必要なケアが行えるように他職種との連携を行ないケアの提供をしています。



丸山 橘子

私が常に大切にしている事は、相手の価値観を認める事です。患者さんや家族そして医療者も最大限の能力を発揮出来るように貢献していきたいと思っています。救急看護の様々な役割の中で私は「トリアージの実践・教育」と「気づきの実践・教育」に特に力を入れています。看護とは何かと聞かれた時に語れる看護師を目指しています。



宮崎 美穂子

私は、突然病気を発症した患者さん、家族に何が出来るのか日々自問自答しながら看護ケアを実践しています。看護ケアを言葉にしてスタッフに伝え、ケア実践することで看護の質を高めることができると考えています。また、ストーマ認定士として、管理方法や装具の選択をWOCナースと協働して活動をしています。



杉本 悠輔

私は、救命センターのER・EICUで患者さんの看護ケアを実践しています。院外活動では、フライトナースやDMAT隊員として活動し、患者さんの不安が少しでも軽減されるよう努めています。救急看護認定看護師教育課程で与えられた課題である「救急看護とは何か」を常に考え、「患者さんと真摯に向き合う看護師」をモットーとして活動しています。



吉田 強志

私は、初期診療においてフライトナース、院内トリアージナース、OPEナース、Angioナースとして防ぎ得た死や防ぎ得た急変を予防するための看護実践を行っています。また、救急看護領域における人材育成に今後も力を入れて行きたいと考えています。現在は初期診療看護におけるシミュレーション教育に取り組んでいます。その行為の主体が患者さんであると、常に意識できる救急看護師を育成したいと思います。



新里 恵

私は、フライトナース、初療室、EHCUCで「看護とは何か」「主体は誰か」を常に念頭におき、看護を実践しています。急性期という短い時間の中で、変化の大きい患者さんを生活者と捉え、何が必要かを考えながらケアを提供しています。今後はその魅力を伝えて行けるよう、教育活動にも力を入れて取り組んでいきたいと考えています。